

学校や地域の実態に即して幼小の連携を図り、児童の活動を充実させた授業づくり

日立市立金沢小学校

1 はじめに

本校の生活科の学習では、学習指導要領の目標(3)である「身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分の良さや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活することができるようにする」ことを主な目的とし、11月には園児を招待しての秋祭りの開催、2月には園児との学校体験を行っている。この実践事例は、秋祭りの実践とともに、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を目指したスタートプログラムに生かす取り組みとして行った、幼小連携協議会についてまとめたものである。

2 指導案等

(1) 単元 つくろう あきのおくりもの

(2) 目標

- ① 招待した園児と一緒に遊ぶことを楽しみにして、秋祭りの準備をしようとする。
(関心・意欲・態度)
- ② 園児の立場になって考え、作品や遊びの準備をしたり、遊び方を説明したりすることができる。(思考・表現)
- ③ 園児に上手に接することができた自分の成長に気付くことができる。(気づき)

(3) 単元について

本単元は、秋の自然物を使って作品や遊びを作ったり、秋祭りに園児を招待して一緒に秋の遊びを楽しんだりすることをねらいとしている。校外学習や校庭探検を通して、児童は季節の変化に気づき、身近な自然への親しみを深めている。その喜びを作品や遊びの形で園児に伝えることで、秋の活動を振り返り表現するとともに、相手のことを考えて進んで準備に取り組んだり、自分の成長に気付いたりすることができると考え、本単元を設定した。

本学級の児童は友達を思いやる気持ちが強く、困っている友達に優しい声をかけたり、「ドンマイ」と励ましたりすることができる。学級内での交友関係においても、学級の児童の半数以上が休み時間に一緒に鬼ごっこをして遊ぶなど、特定の友達に固執せず、広く仲が良い。

指導に当たっては、児童のもつ思いやりの気持ちを生かし、「自分たちが楽しむ」だけでなく、「園児に楽しんでもらう」ことを意識付けることが大切である。園児への招待状を作成したり、秋祭りでお世話をする園児を決めたりすることで、自分たちがお兄さんお姉さんであることへの実感を深め、どのような工夫をすれば一緒に楽しめるかを考えさせたい。また、作品作りや遊びの計画においては、グループでの活動を主体とし、同じグループの児童同士が互いに協力し合い、準備を進められるよう指導していきたい。

(4) 指導計画（6時間取り扱い） ○は本時

次	時	主な学習活動	評価計画			評価規準
			関	思	気	
1	1 2 3 4 5 ⑥	・秋祭りのお店を決める。 ・園児を招待するための準備やルールを決める。 ・作品や遊びの準備をする。 ・園児を招待して、一緒に遊ぶ。	○	○		・園児の立場に立って、準備を行ったりルールを考えたりできる。 ・園児と一緒に遊ぶことを楽しみにして、作品や遊びの準備をすることができる。 ・園児に楽しんでもらうための接し方を考えることができる。
2	1 2	・自分の活動を振り返り、友達に話す。		○	○	・自分の思い出を、友達に伝えるように文字や絵に表現することができる。 ・園児と上手に接することのできた自分に気付くことができる。

(5) 本時の指導

① 目標

○ 園児に秋祭りを楽しんでもらうための接し方を考え、思いやりの気持ちをもって一緒に遊ぶことができる。

② 準備・資料

お店に出す作品や遊びに必要な道具、掲示物、ラジカセ、

③ 展開

学習内容・活動	時間配分	指導上の留意点と評価（評価◎） ☆は児童一人一人を生かす手立て
1 本時の学習課題を知る。 ようちえんせいとあきまつりであそぼう。	2	・本時の活動の流れを確認し、児童に活動の見通しを持たせる。
2 園児に接する時に気を付けることを話し合う。	3	・園児と遊ぶ時のルールを確認することで、年下の相手に思いやりの気持ちをもって接しようとする意欲を高める。
3 秋祭りの準備をする。	5	・時間内に準備が終わるよう、グループで協力して準備を行うように伝える。

4 園児と遊ぶ。 (1) 始めの会を開く。 (2) 園児と一緒にお店を回る。 (3) 店番をし、遊び方や作品の説明を園児に伝える。 (4) 終わりの会を開く。	2 5	・園児のお世話係と店番に分かれ、時間が来たら交代するように指示する。その際紅白帽子をお世話係前半の児童と後半の児童で色を変えて被らせることで、自分の立場を分かりやすくする。 ・巡視を行い、上手に園児に接することのできている児童や遊びや作品の説明をしている児童を称賛する。 ☆園児との接し方が分からず困っている児童には、行きたいお店ややりたいことがないか聞いてみるように助言する。 ◎園児に秋祭りを楽しんでもらうための接し方を考えることができたか。 (発言・行動観察) 〔目標を達成した児童の姿〕 園児へ優しい言葉をかけたり、遊びや作品の説明の仕方を分かりやすく工夫したりしている。
5 片づけをする。	7	・グループで協力して後片付けを行うように指示する。
6 本時の活動を振り返るとともに、次時の見通しをもつ。	3	・次時は秋祭りの感想やできるようになったことを絵や文で表すことを伝える。

3 資料

(1) 幼小連携協議会の開催

上記の授業を実践する前に、秋祭りに招待する2か所の幼稚園の先生方に足を運んでいただき、幼小連携の協議会を1年生の教室で行った。協議会を開くのは今年度が初めての試みである。協議会では、①学習のきまりについて②生活面について③秋祭りについて④児童や園児の情報交換についての4つの事柄について話し合いを行った。話し合いの中ではそれぞれの項目において、現在学年で指導していることや児童の現状、幼稚園でお願いしたい事を学校側から伝えるとともに、幼稚園での指導方法や園児の現状を伺った。

特に①や②においては、学校側の立場では知ることのできなかった、幼稚園で行っている指示の出し方や活動や時間の見通しの持たせ方、清掃や当番活動の仕方、給食や衣類の着脱のきまりなど、様々な取り組みを知ることができ、次年度の1年生への指導の参考になった。

(2) 秋祭りの写真



4 成果と課題

幼稚園生を招待しての秋祭りを開く前に幼小連携の協議会を開催したことで、園児の現状を知ることができたとともに、幼稚園の先生方に秋祭りの様子や活動の流れを詳しく説明することができた。その結果、秋祭り当日は活動をスムーズに行うことができ、児童も園児が喜んでいる様子を見て満足感や達成感を得られたようであった。また、話し合いの中で分かった園での会食の経験が少ないという現状を鑑みて、2月の園児を招いての学校体験を、前年度までの学習会という形から園児と児童と一緒に給食を食べる給食体験へと変更することができた。

同時に、今までは学校に入学してからの児童の様子しか知らず、幼稚園ではどのような指導が行われているのか、何を知りどのような状態で学校に入学してくるのかを理解していなかったことに気付いた。今回の協議会で、幼小の情報交換が非常に有意義であり、小学校という枠の中では決して知ることのできなかつた状況を把握し、幼小それぞれの違いや良さをともに理解することのできる大切なものであることが実感できた。今後も幼小の連携を密に行い、スタートカリキュラムとしての生活科の指導に生かしていくとともに、園児のもつ入学前のわくわくした気持ちを少しでも広げていけるような取り組みを行っていきたい。